

環境報告書

2010



T-Tech
テイ・エステック株式会社

目 次

■ TOPメッセージ	2
■ 基本姿勢 環境宣言	3
■ ISO14001 認証取得状況 / 環境マネジメントシステム推進体制	4
■ 年次目標と実績	5
■ マテリアルフロー / 環境会計	6
■ 環境監査 / 環境教育	7
■ 環境リスクマネジメント	8
■ 2009年度環境保全活動実績	
1) CO ₂ 排出量削減	9
2) 資源の削減	11
3) 化学物質使用量削減	12
4) 公害防止	14
5) 廃棄物削減（資源循環）	15
6) 購買（取引先）、品質関連、その他	19
■ 社会貢献活動（国内 / 海外）	20
■ 関連会社地域別関連データ	23
■ 会社概要	26

報告書の対象範囲

期 間：2009年度（2009年4月～2010年3月）

組 織：国内については、全事業所（5事業所）、国内生産子会社（3社）を報告対象としております。また、海外については、米州、中国、アジア、欧州の生産・開発子会社21法人及び関連会社1社を対象としております。なお、当環境報告書は、テイ・エス テック独自の基準によって編集いたしました。

TOPメッセージ



企業の社会的責任を グループ全体で展開

現在、世界的規模で直面している地球環境問題は、日々深刻さを増しており、「低炭素社会」実現に向けた取組みは、企業の社会的責任において、より積極的な対応が求められております。

自動車内装品メーカーが、低炭素社会の実現という社会的な要請にお応えするには、「燃費向上に貢献する製品の軽量化」が重要であり、これに対し当社では安全機能との両立をはかりながら更なる技術進化に継続的に取り組んでおります。

また、日々の事業活動から発生する環境負荷の低減についても、CO₂、廃棄物の排出量等において、各国、各自治体の目標に沿うことはもちろんのこと、それらを上回る取組みを続けていく事が企業の社会的責任として必要であると考えます。

当社は、これらの取組みと共に、生物多様性を維持する観点から、各地域に於ける自然保護や緑化活動についても、真のグローバル企業として世界11ヶ国で事業活動を行う ティ・エス テックグループ 全体で積極的に展開してまいります。

皆さま方には本報告書を是非ご一読を賜り、忌憚のないご意見やご感想をお聞かせ願えれば幸いに存じます。

ティ・エス テック株式会社
代表取締役社長

古明地利雄

環境基本方針

方針

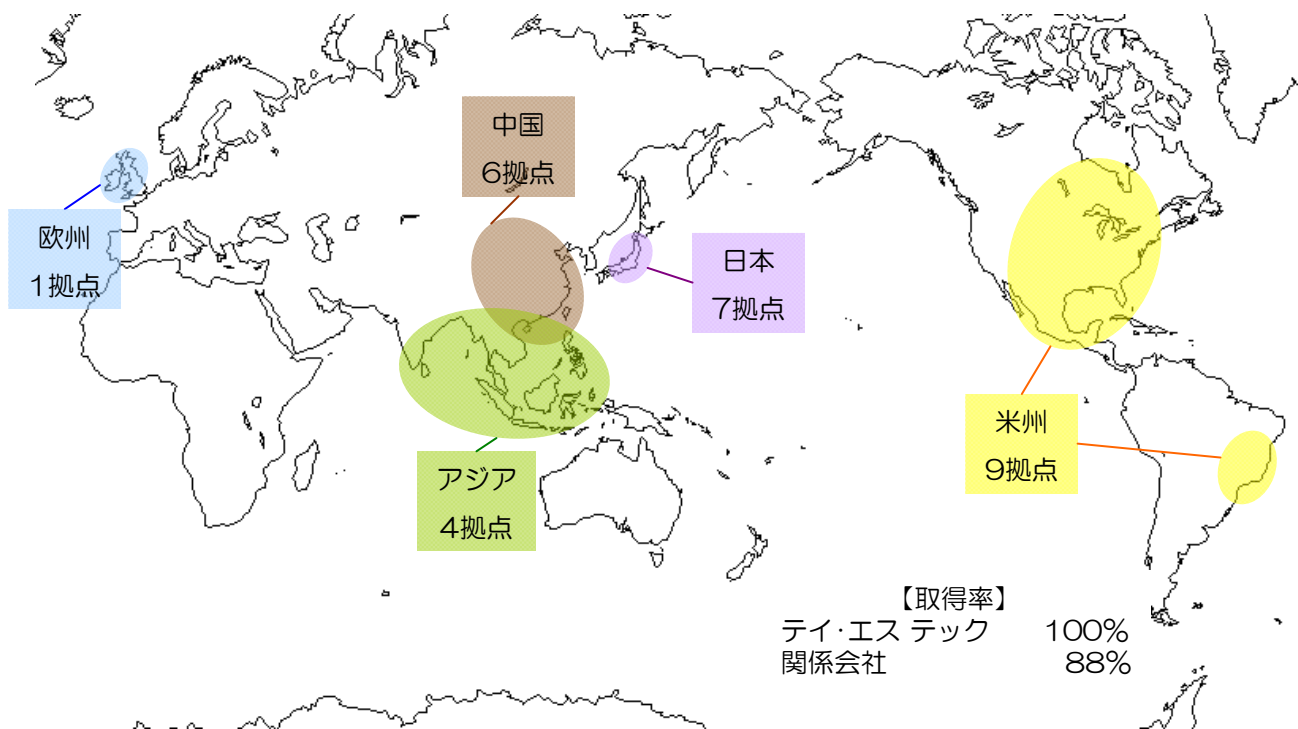
わたしたちは常に地球環境に配慮し、持続可能な資源循環型社会を目指し、生物を汚染から守るため、法の遵守の基に製造業として無限の進化と継続的な改善に挑戦し、環境にやさしい喜ばれる企業を目指す。

行動指針

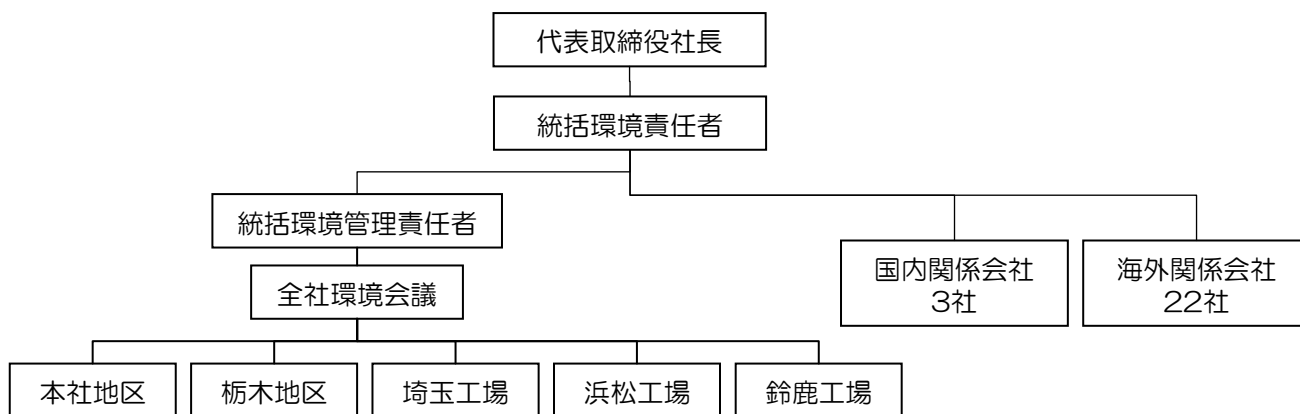
1. 商品の開発、生産、販売、廃棄の各段階においてライフサイクルアセスメント（LCA）の視点に立って廃棄物、汚染物質の最少化と適切な処理を図る。
2. 商品の開発、生産、及びすべての事業活動で材料を有効に活用し、そのリサイクルと、資源、エネルギーの効率的利用に努める。
3. 社会の一員として人の健康の維持と地球環境の保全、及び地域社会との共生に努力すべく、積極的に行動する。
4. 環境保全活動に対し、テイ・エス テックグループ全体で積極的に取り組む。
5. 海外事業活動において、当該国の環境基準の遵守はもとより、環境対策技術の海外移転を積極的に推進する。

2010年4月1日 改訂

ISO14001 認証取得状況

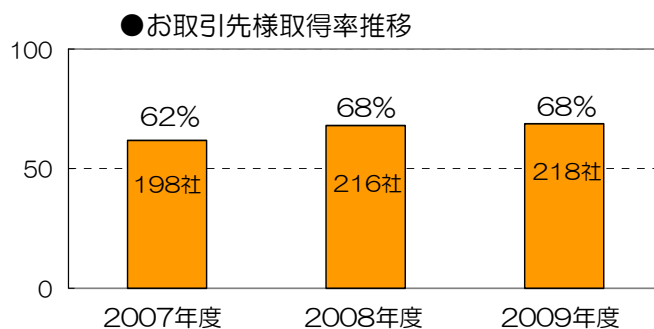


環境マネジメントシステム推進体制



お取引先様環境マネジメント

世界的に環境対応に関する認識が高まる中、主要お取引先様に対し、ティ・エス テックは ISO14001の取得取組みに対し奨励してまいりました。その結果、2009年度は2社のお取引先様が取得され、環境問題取組みへの活性化に繋がりました。今後においても、環境負荷低減に向けお取引先様と連携し活動してまいります。



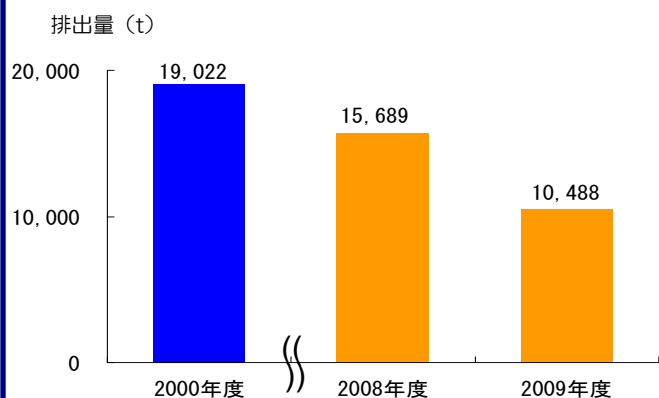
年次目標と実績（国内）

2009年度主要環境目標と実績

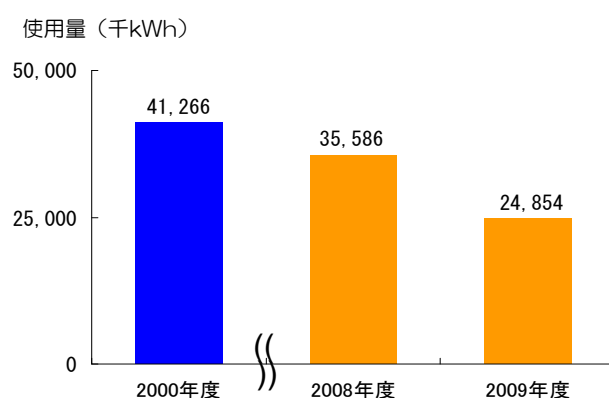
項目	2009年度 目標	施 策	2009年度 実績 ^{※2}	達成度	2010年度 計画
CO ₂	CO ₂ 総排出量 2000年度比：6.1%削減 (2000年度実績：19,022t)	・生産設備の代替エネルギー化 (A重油⇒電力) ・照明の省エネ化	CO ₂ 総排出量 2000年度比：44.9%削減 (2009年度実績：10,488t)	○	前期比 原単位 1%削減 ^{※1}
廃棄物	廃棄物総排出量 2007年度比：2.2%削減 (2007年度実績：2,539t)	・廃プラスチック等のリサイクル ・廃棄食用油・生ごみの再利用 ・製品不良率の低減	廃棄物総排出量 2007年度比：50.9%削減 (2009年度実績：1,246t)	○	前期比 原単位 1%削減
水	水総使用量 2007年度比：0.8%削減 (2007年度実績：378,349m ³)	・全事業所による節水活動 ・水供給設備の漏洩点検・補修	水総使用量 2007年度比：50.6%削減 (2009年度実績：186,767m ³)	○	前期比 原単位 1%削減

※1 原単位（当社基準）：事業活動によって生じた一定の利益に対するエネルギー使用量を係数として表わしています。

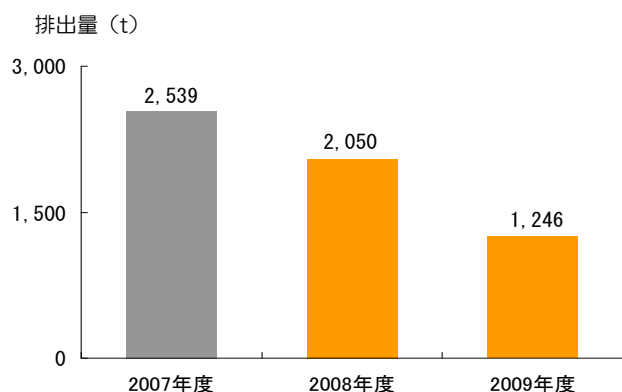
■ CO₂総排出量



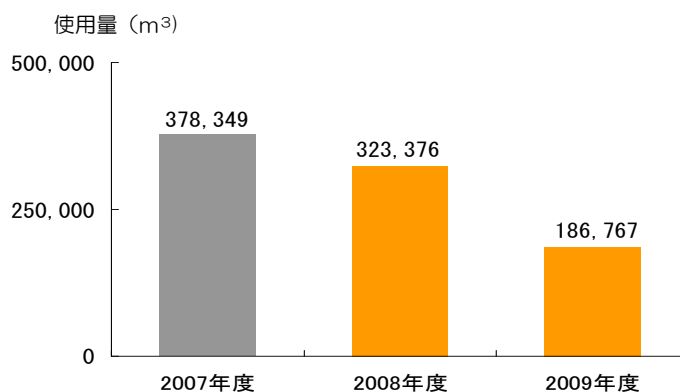
■ 電力総使用量



■ 廃棄物総排出量

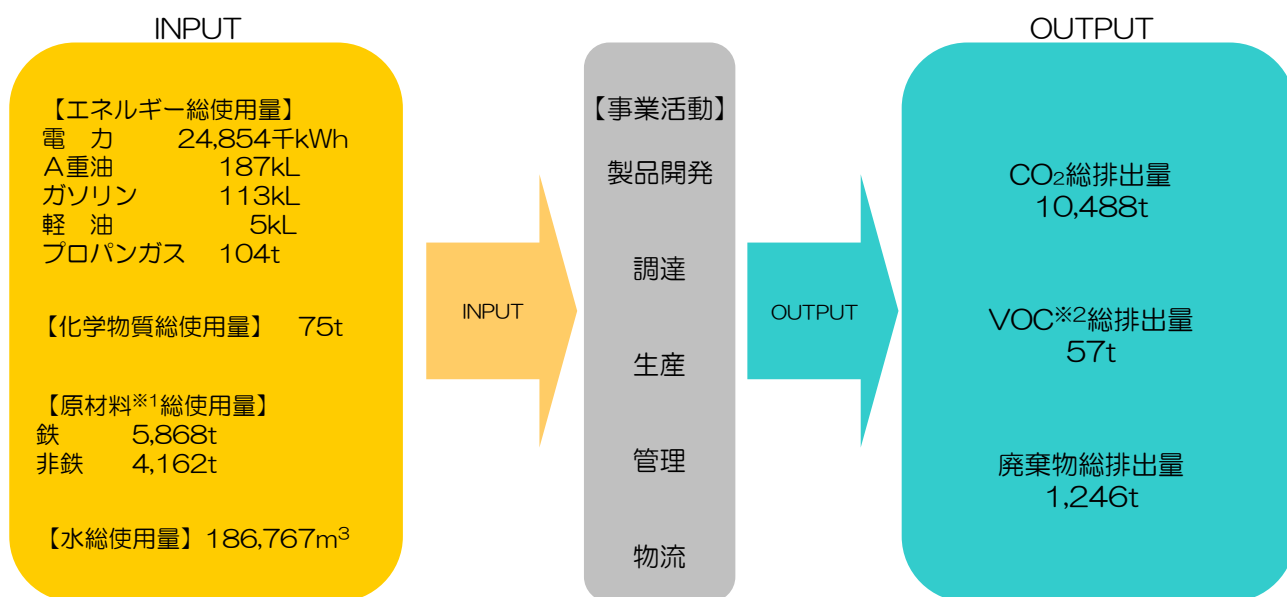


■ 水総使用量



※2 2009年度実績においては、生産数量の大幅な減少（2000対年度比：24%減、対2007年度比：46%減）の影響を含みます。

マテリアルフロー



※1：国内工場内で使用している原材料です。加工された部品調達分は含んでおりません。

※2：VOC（Volatile Organic Compound）：揮発性有機化合物。蒸発しやすく、大気中で気体となる有機化合物の総称。

環境会計

環境保全コスト（事業活動に応じた分類）

（単位：百万円）

分類		主な取組みの内容	投資額	費用額
(1)事業 エリア内 コスト	公害防止	大気汚染防止、水質汚濁防止、土壌汚染防止等	17	28
	地球環境	温暖化防止、オゾン層破壊防止、その他環境保全	82	44
	資源循環	リサイクル、廃棄物処理・処分、節水活動	4	56
(2)上・下流コスト		環境負荷の少ない製品、原材料の購入に伴い発生した費用	—	1
(3)管理活動コスト		環境マネジメントシステムの整備・運用コスト、環境測定費用、事業所内緑化・整備費用	3	75
(4)研究開発コスト		VOC削減（脱塗装）、製品の軽量化、リサイクル可能材料開発等の環境影響度が高い新技術の研究開発	—	145
(5)社会活動コスト		自然保護、緑化、景観保持等の環境対策	—	1
(6)環境損傷対応コスト		土壌汚染の修復等	—	—
合計			106	350

1) 集計範囲は以下のとおりです。

・集計対象会社： ティ・エス テック 国内5事業所

・集計期間： 2009年4月1日～2010年3月31日

2) 上記の数値は按分等の推計により把握した部分を含みます。

3) 集計表の作成にあたっては、環境省より公表されているガイドライン、ガイドブックなどの環境会計に関する資料を参考にしました。

4) 費用額には、減価償却費は含みません。

5) 効果については、本報告書で公表している具体的取組み実績をご参照ください。



環境監査

認証審査（外部監査）

2009年2月、全社認証統合をして、初めての2009年度の第三者認証監査（更新審査）が実施されました。結果は、観察事項として2件の指摘がありましたが、すべて是正対応を完了し、認証継続をしております。



外部審査の様子

事業所間環境クロス監査（内部監査）

内部監査の客観性向上、内部監査員のスキルアップ、等を目的として、事業所相互でのクロス監査を全事業所にて実施いたしました。

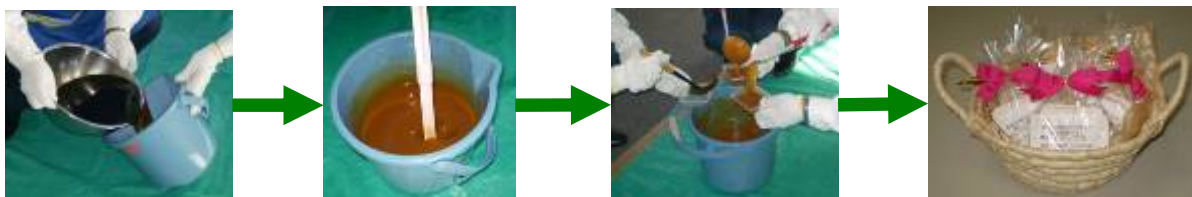
環境教育

社内環境教育の実施

- ・新入社員に対し、社会人としての環境に対する心構えやISO14001活動の基礎教育を実施いたしました。
- ・中堅社員に対し、中堅社員（リーダー）としての環境知識・意識の向上のための環境教育を実施いたしました。
- ・新任管理職に対し、新任管理職研修時に職制としての環境活動に対する考え方や職場環境活動の向上に向けた環境教育を実施いたしました。
- ・各事業所にて環境マネジメントシステム活動の向上を目的に内部監査員養成教育を実施し、新たに67名が内部監査員資格を取得いたしました。
- ・事業所間環境クロス監査の精度向上のため、監査員29名を対象に、スキルアップ教育を実施いたしました。

外部講習会等への参加

- ・自治体主催の環境講座「廃油からリサイクル石けんづくり」を体験し、社員自らが実際に食堂の廃棄食用油を使って、廃油石けんづくりを実施しました。手作りした石鹸は、現在も社内で使用しています。



- ・経済産業省主催のエネルギー管理員講習を、各事業所より6名が受講し、エネルギー管理員資格を取得いたしました。
- ・自治体主催の環境カレッジを受講し、本社地区及び埼玉工場の廃棄物最終処分場にあたる埼玉県環境整備センターの見学などを行いました。
- ・自治体主催の環境大学を受講し、生態系に与える環境影響などについて学びました。

環境リスクマネジメント

土壌汚染法

土壌汚染につきましては、2007年の当社自主調査により、埼玉工場の一部に有害物質が確認されておりますが、行政への届出、改修計画等についても適切な報告を行っております。また埼玉工場をはじめ、各工場における土壌・地下水の汚染状況の調査を毎年定期的実施し、有害物質等の外部流出がないことを確認しております。

ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法

各事業所には、使用済みとなった受電設備（トランス・コンデンサ）に含まれているPCBを廃棄処理のため、右記の表のとおり保管をしております。尚、長期保管に対しては、今後も継続して安全な保管管理の徹底を実施してまいります。



PCB保管状況

事業所	重量 (kg)
本社地区	514
栃木地区	1,755
埼玉工場	2,479
鈴鹿工場	2,397
浜松工場	116
計	7,261

PCB（ポリ塩化ビフェニル）とは

PCBは毒性が強く、しかもいったん体内に入ると脂肪組織に蓄積しやすく、代謝による体外への排出がされにくい。発癌（はつがん）性があり、皮膚や内臓の障害、ホルモン異常をおこすことが知られている。（日本大百科全書（小学館）より引用）

PRTR法

PRTR法※に基づき、年に1回化学物質の大気排出量等を報告しており、問題の発生はありません。

項目	対象事業所	埼玉工場 (行田)	浜松工場	鈴鹿工場
取扱量 (t)		11.6	9.3	4.3
大気排出量 (t)		7.0	9.3	1.7
移動量 (t)		4.6	0.0	2.6

※PRTR法：有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組み。

水質汚濁防止法・下水道法

各事業所から公共用水域に排出される水の排出及び地下に浸水する排水の定期的な観測を実施し、排水基準を遵守していることを確認しております。

項目	単位	本社地区※		栃木地区		埼玉工場				浜松工場		鈴鹿工場	
		規制値	実績	規制値	実績	(行田)		(狭山)※		規制値	実績	規制値	実績
						規制値	実績	規制値	実績				
水素イオン濃度	PH	5.0~9.0	8.5	6.0~8.4	7.7	5.8~8.6	7.9	5.0~9.0	7.5	5.8~8.6	8.1	5.8~8.6	6.9
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/l	(600)	64	10	10	25	22	(600)	59	160	63	25	4
浮遊物質 (SS)	mg/l	(600)	41	25	12	60	9	(600)	76	200	15	90	11

※規制値は一部自主規制値です。

2009年度環境保全実績

1) CO₂排出量削減事例

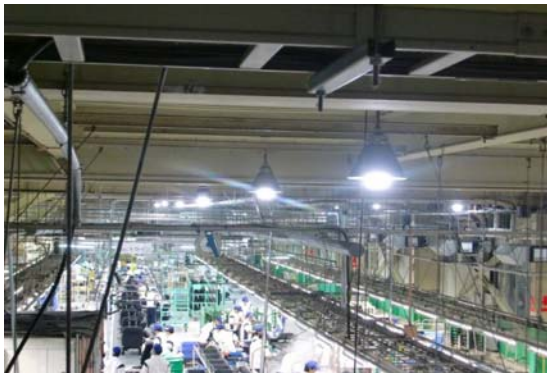
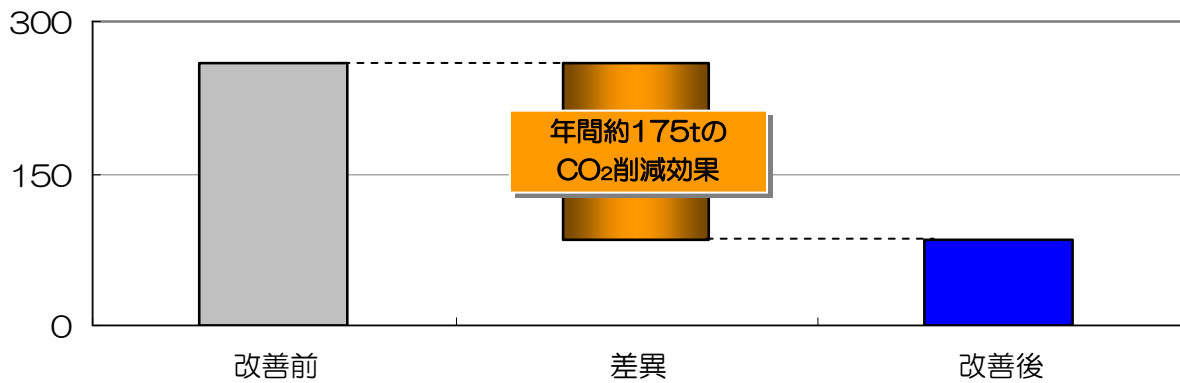
①工程の特性に合わせた照明の見直しによる省エネ化（鈴鹿工場 / 埼玉工場）

第1組立工場では照明を水銀灯から省エネランプに変更しました。

第2・第3組立工場では照明を水銀灯と蛍光灯の併用方式から水銀灯を撤去し、高所取付蛍光灯への変更を実施しました。

●年間CO₂削減量

(t)



鈴鹿工場（第1組立工場）



埼玉工場（第2組立工場）



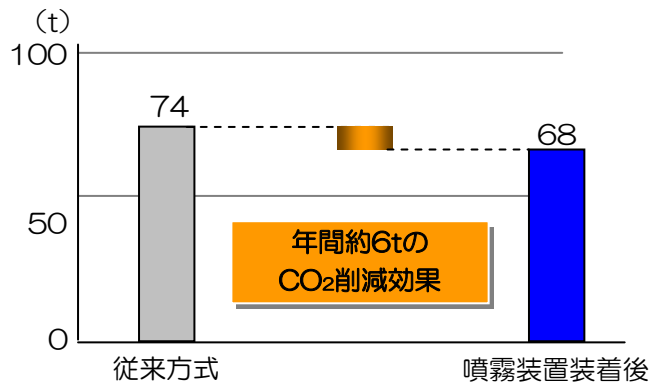
埼玉工場（第3組立工場）

1) CO₂排出量削減事例

②冷房効率向上による省エネ化（埼玉工場）

空調室外機10台に冷却水の噴霧装置を取付け、冷却効率を向上させることにより夏季消費電力の削減を実施しました。

●年間CO₂削減量

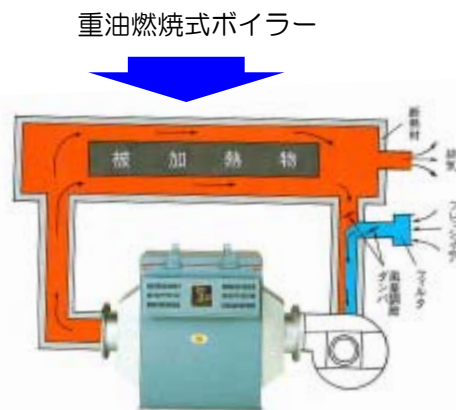
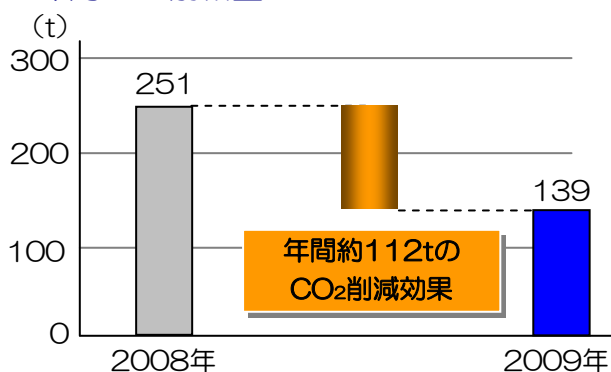


埼玉工場噴霧装置

③エネルギー資源の代替えによる省エネ化（浜松工場）

発泡工程の温風炉の熱源を、重油燃烧式ボイラーから電気ヒーター方式への切替を実施しました。

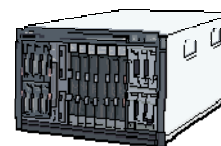
●年間CO₂削減量



電気ヒーター式オープン新設

④開発領域における省エネ化（技術センター）

解析用計算サーバーのリプレースに伴い、性能と消費電力を考慮した機種変更を行い、年間約14,550kWhの消費電力削減(CO₂換算で年間約5t/年の削減)を行いました。



消費電力	4,580Wh
年間消費電力	40,120kWh
年間CO ₂ 排出量	15t/年

年間約5tのCO₂削減効果

消費電力	2,919Wh
年間消費電力	25,570kWh
年間CO ₂ 排出量	10t/年

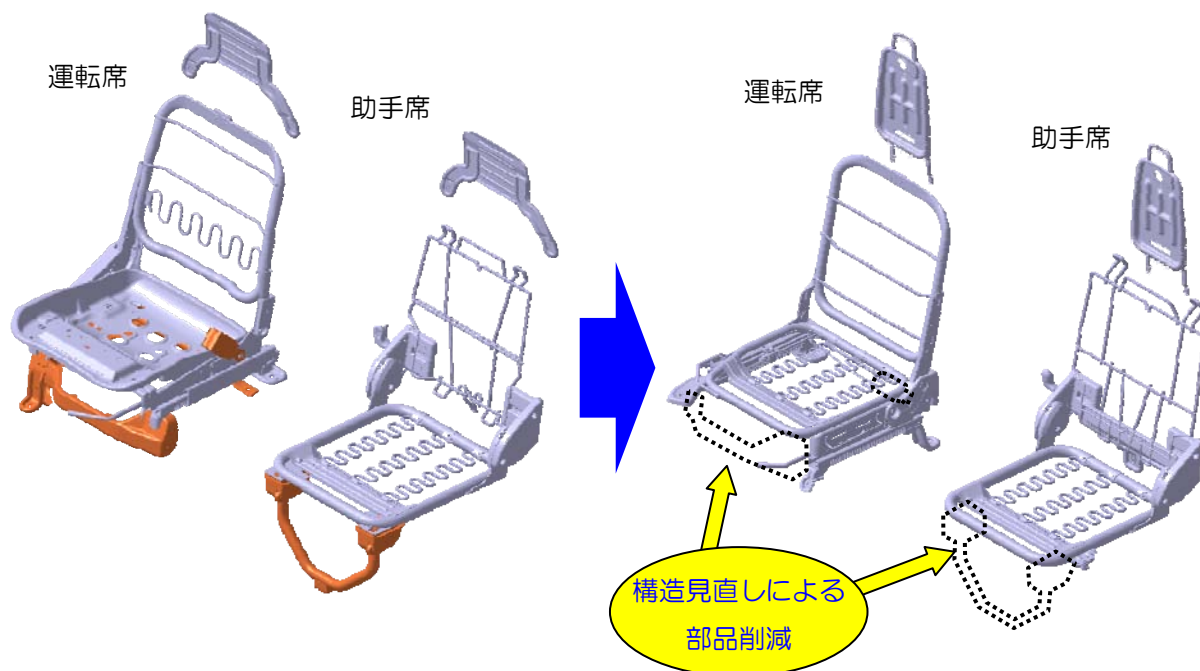
2) 資源の削減事例

新機種開発シートの軽量化

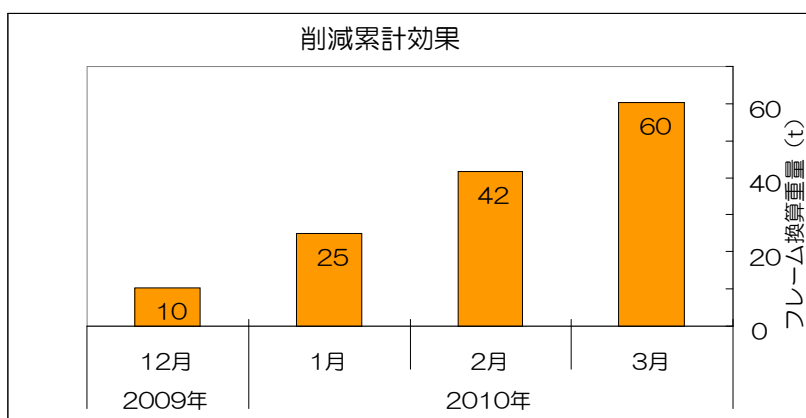
源流に遡った設計段階での構造等の見直しにより部品点数の削減を実施し、軽量化が図られています。

旧モデル

新モデル



2009年12月の生産開始から、2010年3月までの間の生産台数で換算すると、約60tの材料（鋼材等）の使用量の削減となりました。



2009年12月～2010年3月までの間で10tトラック約6台分の金属材料削減

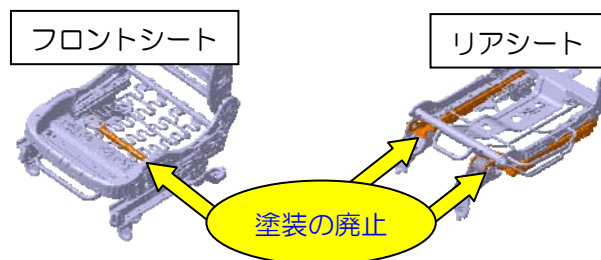
※他機種においても同様の取組みを展開しております。

3) 化学物質使用量削減事例

工場内飛散VOC削減

シートフレーム部品のカチオン電着塗装廃止

マイナーモデルチェンジにおいて、シート部品の塗装を廃止し工場排出VOC削減を図っています。

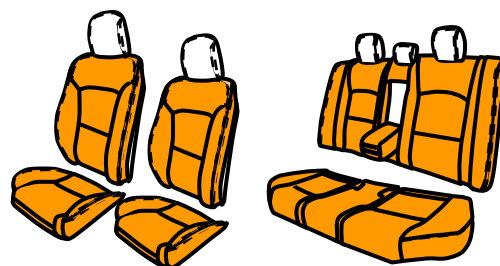


※生産現場での環境負荷（重金属・大気汚染物質）の削減

四輪車用本革トリムカバーのVOC低減

本革トリムカバーでは、表面処理の見直しにより、トリムカバーのVOCの削減を実施しています。

本革のVOC低減レベルは従来に比べ
アルデヒド類が約1/5
(= 80%以上カット)

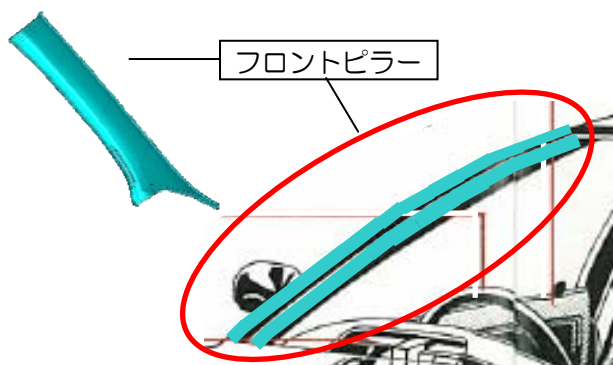


※本革の高級感とソフトな風合いを損なわず低VOC化

ピラー 溶剤レス化

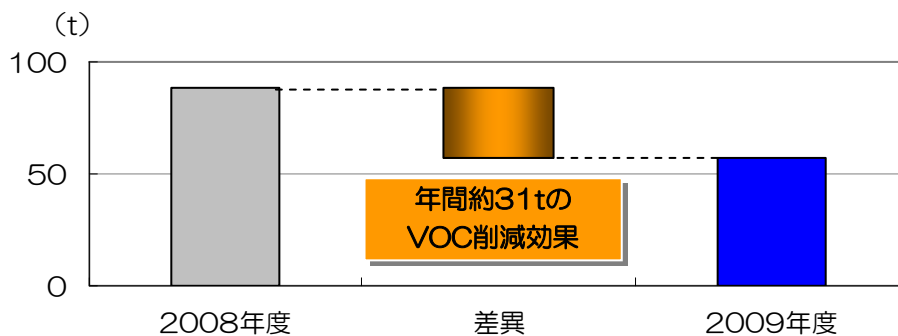
内装用樹脂部品（フロントピラー）では、工法・材料等の見直しにより、使用している溶剤の廃止に成功しています。

項目	溶剤廃止前	溶剤廃止後
環境負荷	△	◎
作業環境	△	◎
材料使用量	◎	◎
総合評価	○	◎



※従来の有機溶剤系接着から 溶剤レス・低VOC粘着加工に改善

国内事業所VOC排出量実績



4) 公害防止事例

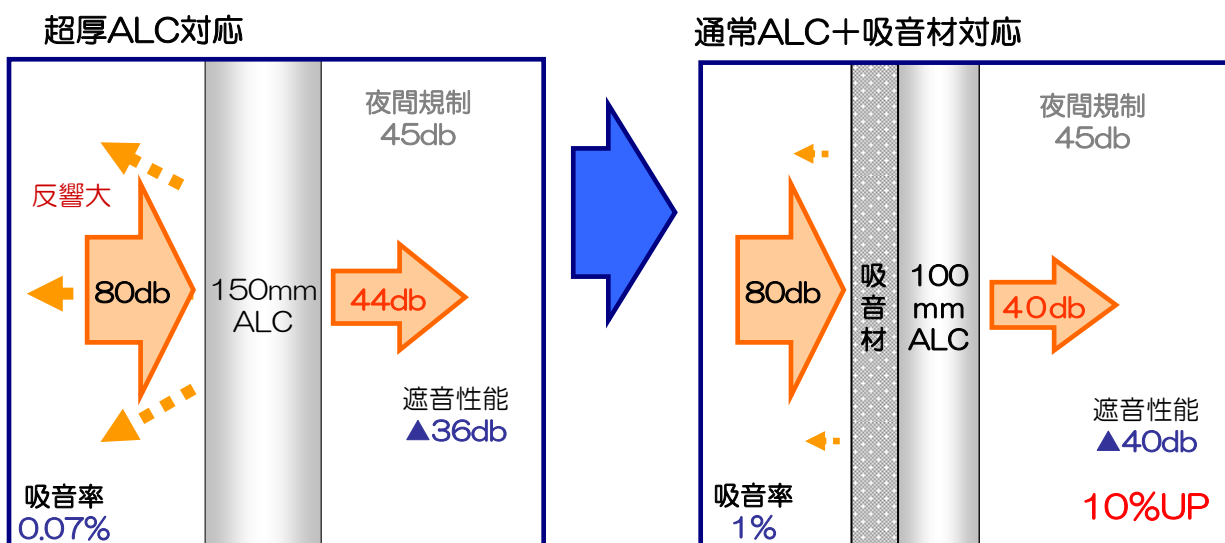
新発泡工場騒音低減（浜松工場）

新発泡工場建設に際して、騒音の防止に向けて建築材や設備の選定を実施しました。

防音壁の採用

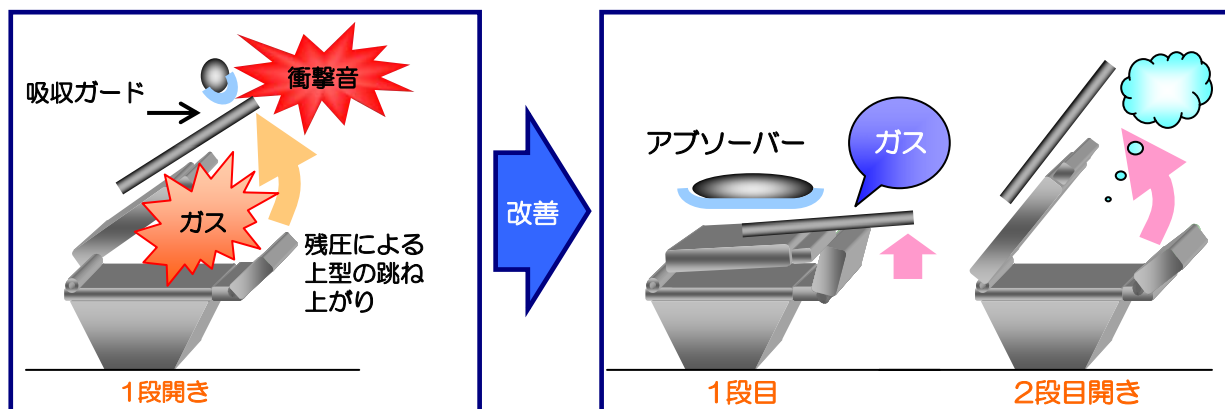
外壁材の選定にあたり当初予定の超厚ALC※仕様から、より防音性の高いALC+吸音材仕様を採用することにより、遮音性能を更に10%向上しました。

※ALCとは、「Autoclaved Lightweight aerated Concrete」の略で、高温高压蒸気で養生された、軽量気泡コンクリートです。建築材料として、高層建築物や倉庫、一般住宅にまで幅広く利用されています。



音源への対策

発泡工程において、金型を開ける際に内部の圧力により大きな衝撃音が発生していたものを、開閉装置の改善により衝撃音を大幅に低下させました。

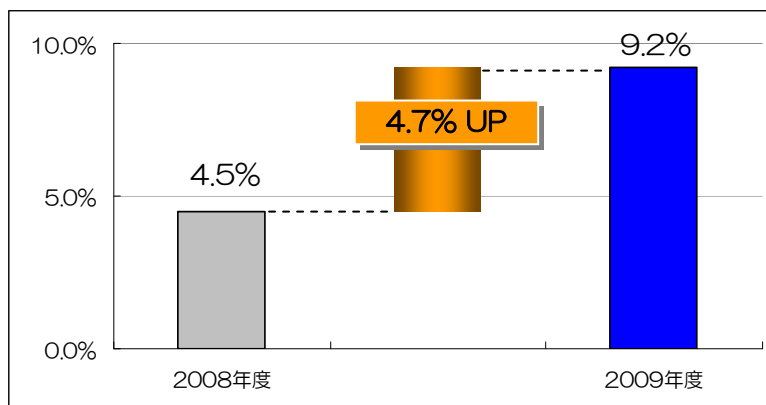


5) 廃棄物削減（資源循環）事例

マテリアルリサイクル拡大の取組み（鈴鹿工場）

固形燃料（サーマルリサイクル）の材料として利用していた廃プラスチック材を、新たな原材料として利用できる方法（マテリアルリサイクル）への切替え拡大を推進しています。

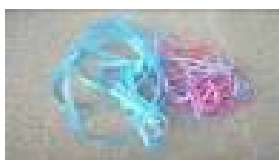
●廃プラスチック材料のリサイクル率



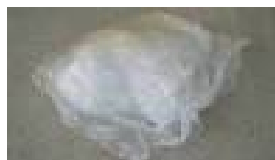
2008年までにマテリアルリサイクルを可能とした廃棄物



ストレッチフィルム



PPバンドビニール紐



ビニール袋



ダンボールプラスチック



2009年度新たに可能となった廃棄物

硬質PPのマテリアルリサイクルに成功



PPドア成形品



ドア成形工程で発生した
ドア基材の端材

5) 廃棄物削減（資源循環）事例

① 食堂からの廃棄物の資源循環（栃木地区）

食堂から排出される2つの廃棄物（廃棄食用油と生ごみ）を地元自治体との協力により、リサイクルする取組みを積極的に行っています。

廃棄食用油のBDF（バイオディーゼル燃料）化

食堂で使用された食用油は、業者に委託して廃棄処分されていましたが、2009年度よりBDF（バイオディーゼル燃料）にリサイクルしています。



BDF（バイオディーゼル燃料）とは・・・

菜種油・ひまわり油・大豆油・コーン油といった生物由来の油や、各種廃食用油（てんぷら油など）から作られる、軽油代替燃料（ディーゼルエンジン用燃料）を総称して、バイオディーゼルという。BDF（Bio Diesel Fuel）と略されることもある。植物は、大気中からCO₂を吸収する光合成を行って成長するため、バイオディーゼルはその燃焼によってCO₂を排出しても、大気中のCO₂総量が増えないカーボンニュートラルである。京都議定書では、植物由来のCO₂排出は、排出量としてカウントされないことになっている。（環境gooより引用）

5) 廃棄物削減（資源循環）事例

② 食堂からの廃棄物の資源循環（栃木地区）

生ごみの堆肥化

食堂から出される生ごみは焼却処分されていましたが、2009年度より有機堆肥へリサイクルしています。



6) 購買（取引先）、品質活動、その他

化学物質規制への取組み

近年、世界的規模で化学物質に対する規制が強化されています。当社においても、社会情勢、顧客ニーズに対応するため、各種の規制に対し昨年引続きサプライチェーンを活用した調査を実施し、化学物質の削減に取り組んでいます。

2009年には、欧州におけるフマル酸ジメチル（DMF）の使用禁止法規発足に伴い、DMF使用状況調査を実施し、問題がないことを確認いたしました。

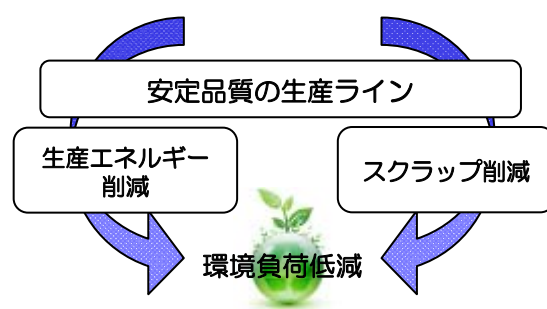
また、REACH法※対応については、サプライチェーンを通してSVHC（高懸念物質）について、含有物質の把握・情報の伝達についての対応を積極的に実施しました。

※REACH法とは：人の健康や環境の保護を目的として2007年6月にEUで施行された化学物質と化学物質の用途・取り扱いに関する新たな規制です。

不良低減による環境負荷削減

当社では良品を継続して安定製造できる生産ラインを創り出し、不良品撲滅を進めることにより、廃棄物の削減を行い、生産の高効率化（エネルギー・資源の有効活用）につなげ環境負荷低減に貢献しています。

2009年10月に発売されたHondaの新型ステップワゴンのシート製造工程では、当社製造の前モデルに比べ工程内不良が大幅に改善され、不良の低減と生産の高効率化を実現しています。



QC活動（TCサークル）

当社の品質を支える人材育成の一環としてQCサークル活動を国内・海外の各拠点で展開しており、品質改善・効率改善の手法を当活動を通じて習熟し、生産品質の向上・効率改善に貢献しています。

国内・外の活動サークル数も年を重ねるごとに増加し、2009年度は541サークルに達し、最近5年間で約1.8倍となり、活発な品質改善・効率改善活動を各拠点で展開しています。



広州提愛思汽車内飾系統有限公司

環境技術のPR

2009年10月、千葉幕張メッセで開催された「第41回東京モーターショー2009」に出展し、当社の技術開発における環境への取組みについて紹介をしております。

リサイクル性を考慮したエコ設計

ブース全体が、再利用可能なアクリル壁を活かした演出及び廃材となる木工材を極力減らしたシステム構造となっております。

環境に配慮した製品の展示

環境技術では、軽量化、快適性、リサイクル性を向上させた新クッション材「レスピラーレ」を展示しました。



（上）当社ブース外観

（左）レスピラーレのリサイクル例を展示

環境に関わる社会貢献活動（国内）

世界の子どもにワクチンを！エコキャップ運動（全事業所）

2009年度から国内の全事業所でエコキャップ運動への取組みを開始しました。各拠点で集められたペットボトルのキャップは、NPO法人エコキャップ推進協会にてリサイクルされ、その収益で「世界の子どもにワクチンを」日本委員会から、ポリオワクチンが世界の子どもたちへ届けられました。



2009年度実績（3月31日現在）

回収総個数	158,565個
CO ₂ 削減量	約1,249kg
廃棄物の削減量	約 396kg
寄付したポリオワクチン	約 198人分



近隣との交流（埼玉工場・浜松工場）



埼玉工場 地域交流会



浜松工場 工場見学

埼玉工場で地元自治会の皆様を招き工場見学を通し、テイ・エステックの製品と、環境への取組みを紹介しました。

浜松工場で小学校の児童達を招き工場見学を通し、テイ・エステックの製品と、環境への取組みを紹介しました。

地域清掃活動（全事業所）

各事業所において、毎年定期的な、地域清掃活動を実施しています。



埼玉工場



栃木地区



本社地区



浜松工場



鈴鹿工場

緑化活動（浜松工場）

浜松工場では、工場敷地の増設に伴い、敷地内の緑化率向上を目的に、駐車場に隣接した土地の緑化を推進しました。



その他の社会貢献活動（国内）

少年野球大会 ティ・エス テック杯の開催（鈴鹿工場）

鈴鹿少年野球団主催の第1回ティ・エス テック杯争奪少年野球大会に協賛。ティ・エス テック杯獲得を目指し26チーム（650名）による熱戦が繰広げられました。



選手宣誓の様子

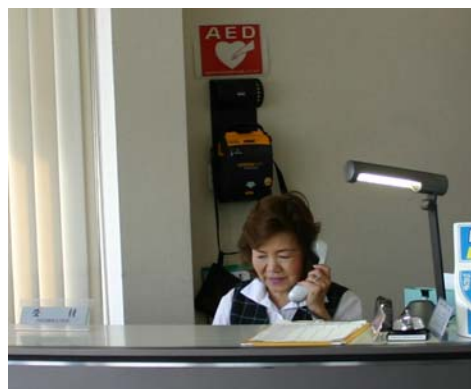
車椅子を寄贈（本社地区）

本社地区では2005年から、毎年車椅子を朝霞市に寄付しています。2009年度も、朝霞市役所にたいしまして5台寄贈しました。



地域との共生（各事業所）

各事業所にて、近隣住民の方にも参加を募り、献血活動及び普通救命救急講習会（AEDの使用を含む）を定期的を開催しております。また、受付にAEDを設置し、近隣の方々にも使っていただけるよう配慮しています。



カーボンオフセット対象商品の導入（鈴鹿工場）

鈴鹿工場では、環境にやさしい消火器を使用しています。この消火器は販売元が排出枠を購入することにより、製造時に排出されたCO₂の一部をオフセットすることができる「カーボンオフセット対象商品」となっていることから、購入者も1本につきCO₂10kg分の排出削減に貢献することができるものです。



社会貢献活動（海外）

INDUSTRIAS TRI-CON DE MEXICO, S.A. DE C.V.



- ・毎年、トライコンメキシコ マタモロス工場及び市営幼稚園において、地域環境保全を目的とし、植樹活動を実施しています。



- ・毎年、トライコンメキシコ ヌエボ・ラレド工場において、環境保護コンテストを実施しています。



TS TECH TRIM PHILIPPINES, INC.



- ・ラグナ湖畔の清掃活動への参加や、社内で作成した掃除用具の寄付など地域社会へ貢献しています。



TS TECH UK LTD.



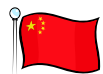
- ・Pentylands County 公園で行われた、Great Western Community Forest 主催の植樹活動へ参加するとともに植樹活動への寄付を行いました。



広州提愛思汽車内飾系統有限公司

広州広愛興汽車零部件有限公司

武漢提愛思全汽車内零部件有限公司



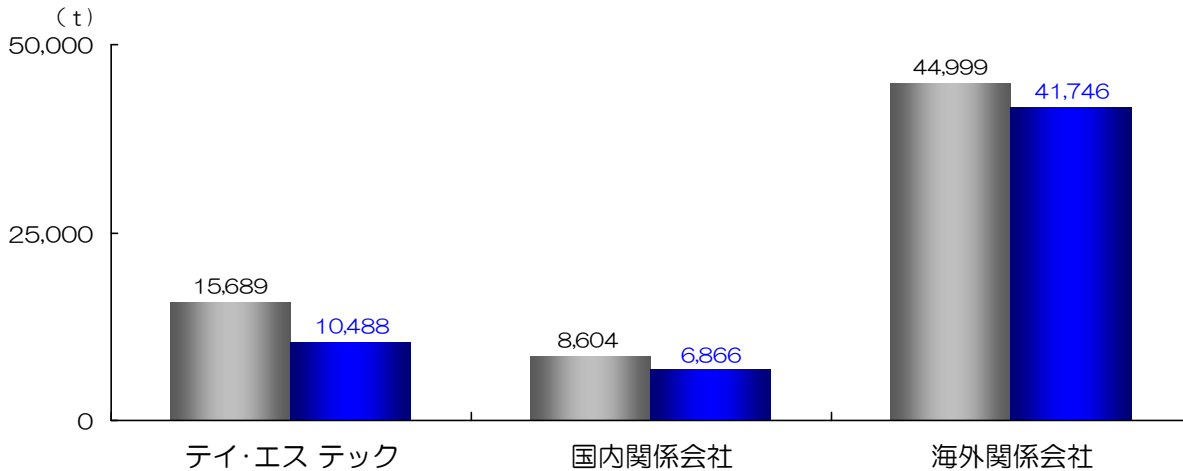
- ・緑化活動への寄付や、事業所主催の植樹活動を実施しています。



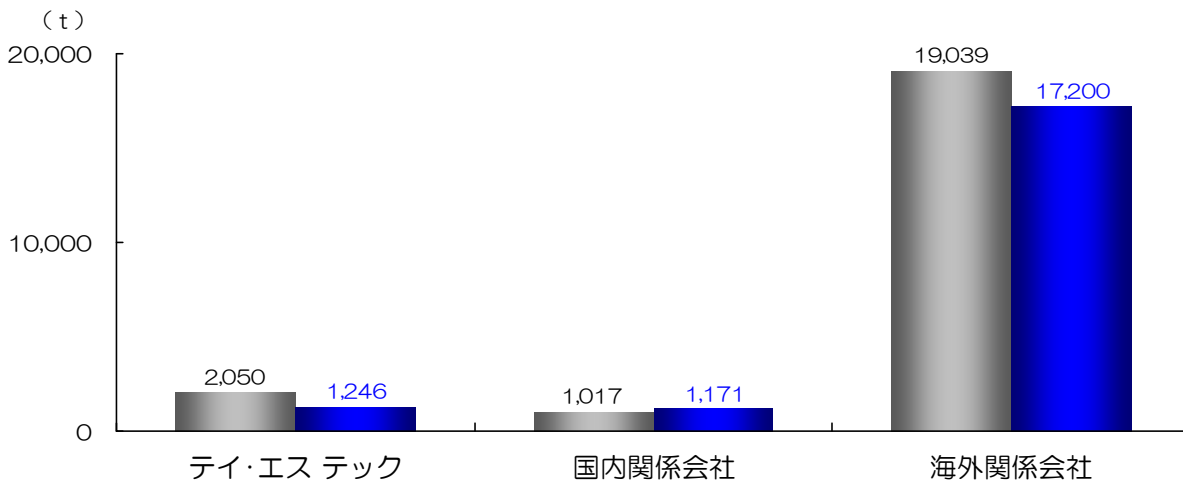
テイ・エス テック及び関係会社の環境データ

■ 2008年度 ■ 2009年度

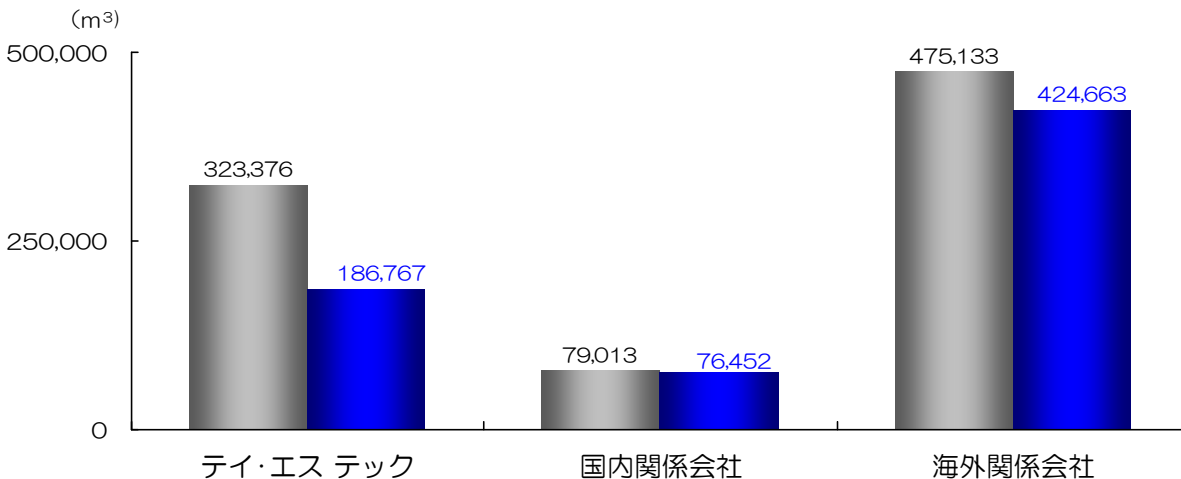
■ CO₂総排出量



■ 廃棄物総排出量



■ 水総使用量



2009年度関係会社別環境データ

国内関係会社

九州テイ・エス株式会社

●本社所在地：熊本県菊池市赤星1890番地

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	10,666,605
ガソリン	kL	26
軽油	kL	8

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	225

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	66,632

サン化学工業株式会社

●本社所在地：静岡県浜松市北区新都田4丁目4番6号

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	1,512,857
ガソリン	kL	6
軽油	kL	2

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	115

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	2,848

総和産業株式会社

●本社所在地：千葉県千葉市中央区中央3丁目9-16 三井生命千葉中央ビル4F

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	4,400,295
ガソリン	kL	42
軽油	kL	5

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	830

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	6,972

2009年度各事業所別環境データ

海外関係会社

米州

TRI-CON INDUSTRIES,LTD. (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	5,178,545

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	2,290

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	8,799

TS TECH USA CORPORATION (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	9,501,320

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	3,151

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	10,069

TS TECH ALABAMA, LLC. (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	6,352,317

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	528

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	13,859

TS TECH INDIANA,LLC (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	1,915,313

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	179

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	1,266

TS TRIM INDUSTRIES INC. (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	20,204,454

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	2,373

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	1,004

TS TECH NORTH AMERICA,INC. (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	2,731,120

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	77

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	48,137

TriMold LLC (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	9,496,990

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	2,123

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	72,990

TS TECH CANADA INC. (カナダ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	2,464,770

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	417

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	2,843

2009年度各事業所別関連データ

海外関係会社

米州

TRIMONT MFG.INC. (カナダ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	4,608,277

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	693

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	6,479

INDUSTRIAS TRI-CON DE MEXCO,S.A. DE C.V.

(メキシコ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	5,914,161

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	1,054

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	10,504

TS TECH DO BRASIL LTDA. (ブラジル)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	2,691,000

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	729

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	13,028

中国

広州提愛思汽車内飾系統有限公司 (中国)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	5,006,840

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	181

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	80,581

寧波保税区提愛思泉盟汽車内飾有限公司

(中国)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	668,704

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	190

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	5,790

広州德愛康紡績内飾製品有限公司 (中国)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	608,984

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	56

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	5,860

寧波出口加工区提愛思泉盟汽車内飾有限公司

(中国)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	756,975

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	33

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	6,291

2009年度各事業所別関連データ

海外関係会社

中国

武漢提愛思全興汽車零部件有限公司

■エネルギー (中国)

項目	単位	使用量
電力	kWh	2,879,111

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	495

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	35,958

広州広愛興汽車零部件有限公司 (中国)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	2,832,800

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	29

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	17,967

アジア

TS TECH TRIM PHILIPPINES, INC. (フィリピン)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	1,123,500

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	564

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	19,553

PT. TS TECH INDONESIA (インドネシア)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	1,569,004

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	151

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	21,921

TS TECH (THAILAND) CO., LTD. (タイ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	4,393,730

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	587

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	30,408

TS TECH SUN (INDIA) LIMITED (インド)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	781,740

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	852

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	4,836

欧州

TS TECH UK LTD. (イギリス)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	2,494,800

■廃棄物

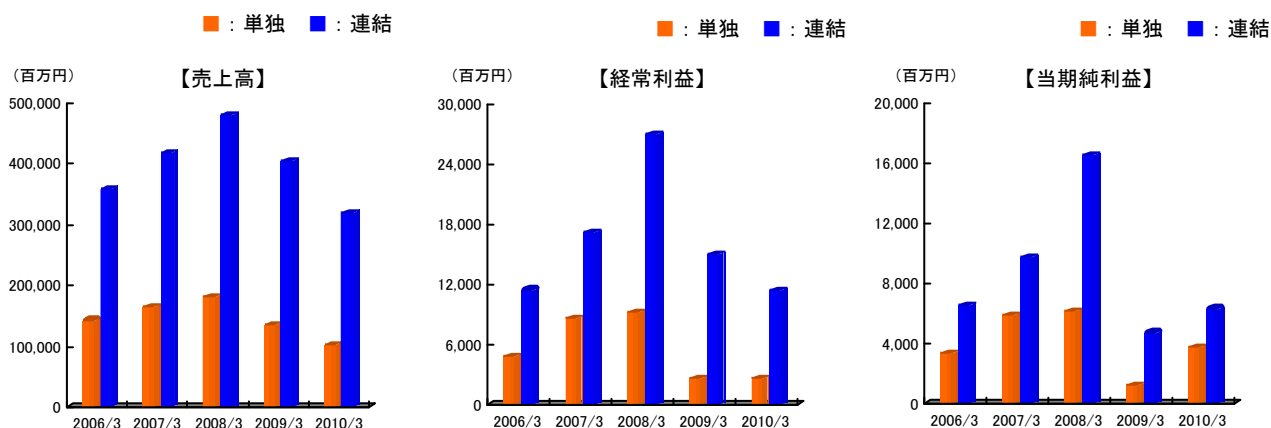
項目	単位	排出量
排出量	t	447

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	6,502

会社概要

商号	テイ・エス テック株式会社（英文名：TS TECH CO.,LTD.）
設立	1960年12月5日
本社	〒351-0012 埼玉県朝霞市栄町3丁目7番27号
資本金	4,700百万円
売上高	単独102,247百万円 連結317,990百万円
主な事業内容	四輪車用シート、四輪車用内装品、二輪車用シート、 二輪車用樹脂部品等の製造販売
従業員数	単独1,651名 連結12,608名（2010年3月31日現在）
主な取引先	本田技研工業(株)、(株)本田技術研究所、(株)ホンダトレーディング、 (株)ホンダアクセス、スズキ(株)、ヤマハ発動機(株)、川崎重工業(株)、 富士重工業(株)、いすゞ自動車(株)
業績	2010年3月31日現在



後記

当社3回目となる『環境報告書2010』を発行いたしました。
今回発行いたしました報告書では2009年度、国内事業所（関係会社を含む）、
海外関係会社の環境活動実績のデータと活動事例の一部を紹介いたしております。
このような一連の情報発信を通じてより多くの皆様に、当社の環境に対する考え方
や環境・社会貢献活動取組みについて、知っていただければ幸いです。

2010年9月30日

掲載内容に対するご質問等は下記にて

お問合せ先

TEL.048-462-1128

FAX.048-465-0403

テイ・エス テック株式会社
環境報告書編集委員会
業務監理本部 CSR室 環境マネジメント課